

北星教育

第13号

2021年11月26日



クリスマス 特集号



1947年 エバンス先生歓迎クリスマス祝会

1911年（明治44）に北星女学校の教師として着任したエバンス先生は、日米の緊張が高まる1941年（昭和16）7月に帰国されました。1947年（昭和22）12月15日、北星に再び戻るため札幌駅に降り立ったエバンス先生を生徒たちは「welcome! welcome, Miss Evans!」と歌って出迎えました。この年のクリスマスには、エバンス先生を歓迎するクリスマス祝会が開かれ、救い主の降誕を祝いました。



目次

- アドヴェント第1週のメッセージ／女子中高のクリスマス (2-3)
- アドヴェント第2週のメッセージ／大学・短期大学部のクリスマス (4-5)
- アドヴェント第3週のメッセージ／附属高のクリスマス (6-7)
- アドヴェント第4週のメッセージ／余市高のクリスマス (8-9)
- クリスマスにおすすめの本・クリスマスQ&A (10-11)
- 写真で振り返る北星学園のクリスマス／編集後記 (12)



アドヴェント第1週のメッセージ

いのちの灯なるイエス・キリスト

北星学園女子中学高等学校 宗教主任 木村 大介

「あなたの御言葉は、わたしの道の光 わたしの歩みを照らす灯。」(詩編 119篇105節)

教会暦(キリスト教のカレンダー)では、クリスマス前の4週間をアドヴェントとよび、キャンドルを灯しつつ、キリストの誕生を待ち望みます。

いろいろな言い伝えが残っていますが、キャンドルにはそれぞれ名前がつけられているのをご存じでしょうか。最初は「預言のキャンドル」で意味は「希望」。次は「天使のキャンドル」で意味は「平和」。次は「羊飼いのキャンドル」で意味は「喜び」。最後は「ベツレヘムのキャンドル」で意味は「愛」。最初の「預言のキャンドル」が「希望」を意味するのはなぜでしょう。それは、預言つまり神の言葉が、私たちの希望となるからです。

ある人が夢で四本のアドヴェント・キャンドルを目にしました。「平和」のキャンドルが言いました。「世の中を見てごらん。みんなが私を嫌って、互いに傷つけあっている。ああ、私はもう火を灯していることはできない。私は消えてしまおう」。そう言って平和のキャンドルは消えてしまいました。次に「喜び」のキャンドルが言いました。「私

はこんなにも本物の喜びを輝かせているのに、だれも私を見てくれない。みんな好き勝手なことをして自己満足の喜びに浸っている。私も火を消してしまおう」。続いて「愛」のキャンドルが言いました。「私も、精一杯人々を暖めようと燃えてきた。でも人々はみんな冷たいまま。私も、もう燃えていることはできない。静かに消えて行こう」。真つ暗になった部屋で、その人が悲しく泣いていると、突然「希望」のキャンドルに火が灯りました。希望のキャンドルは言いました。「泣かなくていいよ。私に火が灯っている限り、平和にも、喜びにも、愛にも、再び火を灯すことができるから」。

そして希望のキャンドルは平和のキャンドル、喜びのキャンドル、そして愛のキャンドルに火を灯し、部屋は再び明るさを取り戻したということです。

私たちはすぐに平和が壊され、喜びをかき消され、愛が失われる世界に生きています。けれども預言・神の言葉は、確かな土台また指針として、私たちに希望をもたらします。

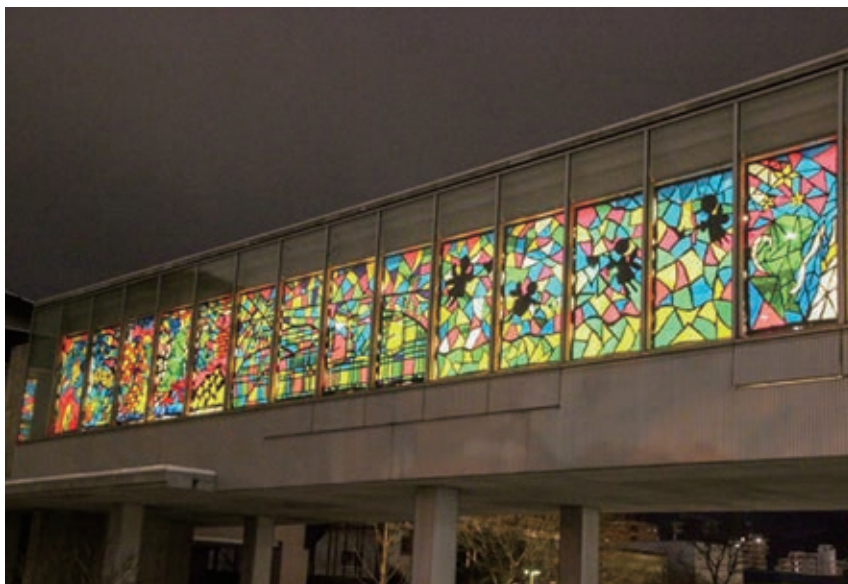
さらに「御言葉は、わたしの道の光 わたしの歩みを照らす灯」として、コロナ禍の今は一層、私たちを温め、歩みを照らす灯となることでしょう。闇が深まるほどに光がその輝きを増すように――。

古の預言の成就としてこの世界にお生まれくださった「いのちの灯なるイエス・キリスト」の恵みと平安が、皆さまの上に豊かに豊かに注がれますように。

クリスマス、心からおめでとうございます。



★女子中高のクリスマス



講堂へと続く渡り廊下には、生徒全員で作ったステンドグラスが色鮮やかに飾られています。(左)

クリスマス礼拝は北星学園女子中学高等学校がもっとも大切にしている行事です。生徒たちは1カ月前から準備を始め、キリストが誕生したシーンやエピソードを降誕劇として象徴的にまとめたページェントを披露します。ハンドベルの演奏やクリスマス・キャロルを歌うなど、生誕の喜びを生徒だけでなく、卒業生や市民の方々と分かち合う礼拝です。



クリスマス礼拝でページェント（降誕劇）の最後に全校生徒でハレルヤコーラスを賛美します。



ハンドベルクワイアによる演奏



今年度のクリスマス行事

- 12月2日(木) 16時30分～ クリスマスツリー
点灯式
- 12月15日(水)～17日(金) クリスマス活動
- 12月21日(火) クリスマス礼拝

※新型コロナウイルス感染症対策のため、一般の方のご参加はご遠慮いただいております。



病院や介護施設へ、生徒一人ひとりが心を込めた手作りのクリスマスカードをお届けします。



アドヴェント第2週のメッセージ

そして父になるヨセフの場合

北星学園大学・短期大学部 チャプレン 日高 嘉彦

「夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。」
(マタイによる福音書 1章19節)

聖書のクリスマスの話をする際に、難しいと思うことがあります。それは当時の習慣です。親が幼いときから結婚相手を決める「いいなずけ」(ルカ1:27)の制度は、将来のパートナーであっても結婚しているのと同じ意味を持ちます。しかし説明しなくても分かることもあります。それは人間の感情です。信頼していた恋人や友人に裏切られた。そこで相手を責め、傷つけ、さらに相手を傷つけることによって自分が傷つく。これは時を超えて理解が出来ます。

今日読んだ聖書の箇所もそうです。一人の若い男性が結婚を約束していた女性に裏切られた。こともあるように、自分の知らない間に、彼女は子供を^{はら}うでいた。ヨセフは苦しい思いで、別れを決心します。それが「夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。」の場面です。

ヨセフには落ち度がありません。一方的に精神的・社会的に傷つけられたので、それを償ってもらうため、マリアの不義を表ざたにし、正式に離縁状を渡さず、彼女の再婚する道を閉ざすことで、彼女を社会的に葬ることが出来た。マリアは傷つけられ、胎内の子も「不倫の子」(申命記23:3、口語訳)となります。これが世間の「正しさ」です。

しかし、そうしなかったヨセフを、聖書は「正しい人」と呼んでいます。聖書が言う「正しさ」とは、正しいことと間違っていることの区別を解った上で、自分の正しさを盾に相手を追いつめ、傷つけ叩きのめす事はしない。相手の状況を考え、逃げ道を備える。自ら憂いをかかえつつも、相手に手を差し伸べる決断をする態度、優しさをさします。

そして神は、ヨセフの憂い、悩み、苦しみを一つの言葉で取り去ります。「神が共にいる」(マタイ1:23)、それがマリアの胎内にいる子の名前でした。ヨセフの憂い、悩み、苦しみに、神が共にいて寄り添ってくださる、ヨセフはそのことを受け入れました。それがマリアを妻として受け入れ、その子の父となることでした。この父に育てられたナザレのイエスも、人の苦しみや憂いを自分の憂いとし、手を差し伸べ続ける人でした。私たちはイエスの誕生を祝うクリスマスにあたり、正しい「優しさ」に心を向けましよう。



★大学・短期大学部のクリスマス



クリスマス礼拝（キャンドルサービス）



今年度のクリスマス行事

クリスマスコンサート

●Crystal Tears コンサート（※要予約）

日時：12月10日（金）12時10分～

場所：大学チャペル

内容：クリスマスキャロル、クリスマスソング

●水野均 オルガンコンサート（※要予約）

日時：12月21日（火）12時10分～

場所：大学チャペル

内容：クリスマスページェントとオルガン曲

●吉村美穂 クリスマスコンサート（録画配信）

日程：12月1日（水）から配信

出演：吉村美穂（クリスチャンシンガー）

野田常喜（ピアノ）



クリスマス祝会でのピニャータ割り



クリスマス礼拝のハンドベル演奏



子どもクリスマス会

クリスマス・イベント

●北星チャペルでクリスマス（子どもクリスマス会）

日時：11月29日（月）17時00分～

（小学生15名限定：要予約）

●大きなクリスマスツリー点灯式・ステンドグラス点灯

日時：11月29日（月）18時00分～

●クリスマス礼拝（キャンドルサービス）

日時：12月23日（木）18時00分～

*感染対策（マスク着用、着席記録、手指消毒等）にご協力ください。

*感染状況が悪化した場合、中止することがあります。

*詳細は、北星学園大学総務課（011-891-2731 平日9:00～17:00）にお問い合わせ下さい。



大きなクリスマスツリー点灯式



フラ・アンジュリコ
「受胎告知」 1430年頃



アドヴェント第3週のメッセージ

イエスの母 マリア
「恐れることはない。あなたは神から恵みを
いただいた」

北星学園大学附属高校 宗教主任 今城 慰作

「天使は、彼女のところに来て言った。『おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる』。マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使は言った。『マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。』」（ルカによる福音書1章29、30節）

イエスの母マリアは、ヨセフと婚約中に、天使ガブリエルから「イエスを身ごもった」ことを告げられます。これ聞いたマリアは戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ（29節）と書いてあります。当時の聖書の社会では、たとえ婚約中であっても、身に覚えのない妊娠は、他の男性と関係を持ったと世間から思われても仕方がありません。石を投げつけられて殺されるほどの重い罰がありました。ですから「戸惑うこと」は当然です。マリアは「ダビデ家のヨセフ」と婚約中でした。婚約は、これから結婚に向かって歩もうとしていることを公にすることで、結婚したわけではありません。マリアはまだヨセフとの結婚生活を始めていたわけではありません。重い罰と共に、マリアとヨセフはお互いに相手の人生について心配をしたかも知れません。

新約聖書はもともとギリシャ語で書かれてあります。新共同訳聖書には「戸惑う」と訳されていますが、かつての

口語訳では「ひどく胸騒ぎがして」とありました。また、ある聖書学者は、「まったく心を乱され」と翻訳しています。天使から「おめでとう」という挨拶を受けましたが、マリアはその挨拶を喜ぶのではなくて、ひどく困ってしまった戸惑ってしまった。心を乱されたのであります。

そんなマリアに天使は言います。「恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた」（30節）

私たちもまた、マリアと同じようなことが起きています。神の子を身ごもるといような大ごととは起きなくとも、このクリスマスMASの出来事を読むとき、私たちも小さなマリアであると想像して欲しいのです。マリアのように、神の出来事が私たちの人生の中に飛び込んでくる。こんなはずじゃなかったのにと思われる。こんな計画、自分の計画にはなかったのにといようなことが起こる。神のご計画のために、自分が用いられるという経験を、私たちの誰もがしているのです。

こののち、マリアは言いました。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」（38節）。「はしため」という言葉は元の言葉では、女奴隷という言葉です。勝手気ままにやるのではない。あくまでも、神のしもべ、神の奴隷であると、マリアは言っています。

奴隷という言葉に耳にすると、人間扱いされていないだとか、非人道的な響きに聞こえてしまうのかもしれない。ここでマリアは、自分のすべてを神さまに明け渡します。そのような覚悟を述べています。ですから「お言葉どおり、この身に成りますように」という言葉が続くのです。

神さまの御業はいつも小さなところから始まります。神さまの御使いが「恐れることはない」と告げます。

私たちも言いたいものです。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」。

★附属高のクリスマス

2019年度のクリスマスと、コロナ禍にあって苦心した2020年度のクリスマスの様子を紹介します。

2019年度

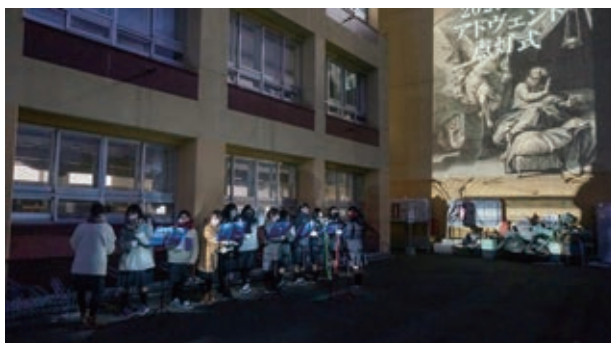


今年度のクリスマス行事

- 11月29日（月）
 - 7校時 ～ 15:30 アドヴェント礼拝（映像）
 - 16:40～ アドヴェント点灯式
 - 17:00～ アドヴェント花火
- 12月21日（火） クリスマス礼拝（映像）



2020年度



12月13日～15日 クリスマス献金期間

* 今年度の献金先 *

- ① ペジャワール会
(アフガニスタン復興支援のために)
- ② 日本聖公会札幌キリスト教会
(コロナで生活が困窮している海外留学生のために)
- ③ NGO団体 Go Share
(フィリピンの子供たちの支援)
- ④ 日本キリスト教会札幌豊平教会
(生活困窮者の食堂支援)
- ⑤ イコロ札幌 (フードバンク活動の支援)





アドヴェント第4週のメッセージ

クリスマスおめでとう

北星学園余市高等学校 宗教主任 塩見 耕一

「ヨハネが捕らえられたのち、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、『時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい』と言われた。」(マルコによる福音書1章14、15節)

クリスマスおめでとうございます。今年もクリスマスを迎えることができましたことを感謝します。毎年、年中行事のようにクリスマスがやってきます。そして、おめでとうと言いますが、何がおめでたいのでしょうか。クリスマスの本質とは一体どういうことなのでしょう。

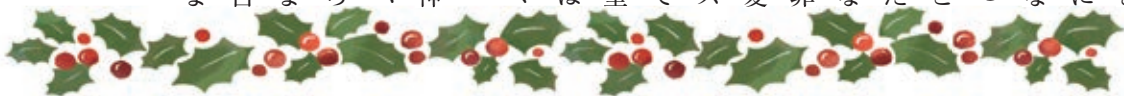
前述の聖書を引用した「マルコによる福音書」にはクリスマススの物語は記されていません。マルコの著者は徹底して十字架へ向かう救い主イエスの姿を記しています。つまり、本来なら私たち自身が負うべき罪を代わりに背負い十字架でいけにえとなって死んでくださったことこそが救い主イエスの本質であること、さらにそのイエスを死者の中から甦らされた神の愛が私たちに注がれていることこそが福音であると記しています。

「時は満ち、神の国は近づいた。」イエスの第一声はこの様に言われています。イエスの登場により「時は満ち」た

のです。「神の国は近づいた」神の国とは神の支配が行きわたった世界のことです。人間の支配が広がる世界の中に新しいシステムとしての神の支配が始まったという宣言なのです。人間の支配する世界の中にイエスを通して始まった神の支配する世界とはどんな世界なのでしょう。ひとり子イエスの命を犠牲にしても私たちを救おうとされた神の愛から始まった愛を基準とする世界なのです。「あなたの命は心配する必要はありません。イエスが代わりに罪を負ってくれたのです。あなたは大胆にあなたの隣人を愛していきなさい。」そんな生き方が実現する世界がイエスの登場とともに始まったのです。今までどれほど頑張っても越えることのできなかった「私」と「隣人」との間の壁を越える希望がうごきだしたのです。そこには今までとは明らかに違う世界が広がっているのです。それがクリスマスなのです。

クリスマスおめでとう。2千年間言い続けています。神の国はまだ完成してはいないかもしれませんが、まだまだ、完成には程遠いかもしれませんが、そこには素晴らしい世界が広がっていることは気付いてきていると思います。神の国の完成に向けて「クリスマスおめでとう」と言い続け、神の愛を担い続けていくものになりたいと願います。

「クリスマスおめでとう」



★余市高のクリスマス



ピアノ演奏

毎年、有志がトーンチャイムを練習して賛美礼拝を盛り上げてくれます。年によってはピアノや楽器を演奏してくれます。素人の演奏なので、聴衆もドキドキしながら息をひそめて応援しながら見守っています。うまくいってもいなくても大喜びで、温かいムードのクリスマス礼拝です。

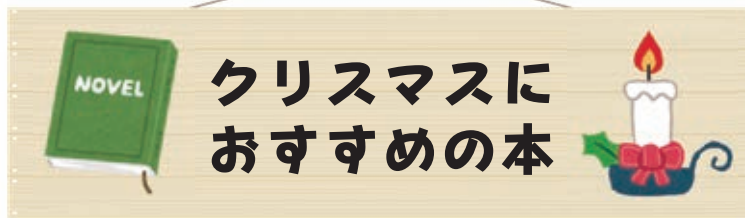
昨年は宗教主任が入院中にもかかわらず準備をしてくれました。「今、世の中ではクリスマスが楽しい時間となっているが、聖書で紹介されている最初のクリスマスはさみしいものだった。誰も救い主が生まれたなんて知らない」というお話から始まり、クリスマスの意味や考え方を伝えてもらいました。

今年も12月13日に開催を予定しています。トーンチャイムのメンバーが集まるかハラハラですが、きっとうまくいくでしょう。 楽しいクリスマス礼拝です。



礼拝の最後は、サンタクロースから全校生徒へのプレゼント
そしてそのまま終業式、冬休みへと





★日本語版おすすめ
『クリスマス・キャロル』
(角川文庫)

★英語版おすすめ
『A Christmas carol』
(講談社英語文庫)

『クリスマス・キャロル』

チャールズ・ディケンズ、1843年

クリスマス・イヴの夜、けちん坊のスクルージに起こる奇跡の物語—イギリスの文豪ディケンズによるファンタジー小説ですが、実は厳しい社会批判が込められた、れっきとした大人向けの小説です。「飢餓の40年代」と呼ばれていた時代に、おぞましい児童労働の実態に怒りを感じたディケンズは、社会変革を願ってこの小説を書きあげました。このスクルージ再生物語は、人生のセカンド・チャンスを望む、私たちの心の奥底にある深い望みに触れる物語でもあります。「ときどき子どもに戻るのはいいことだ。そうするのに、クリスマスほど恰好の機会はない。この日は、偉大な主ご自身が子どもであられたのだから」とディケンズは言います。今年のクリスマスは子どもに戻ってファンタジーを読んでみませんか。きっとあなたにも奇跡が起きますよ！



(おすすめ人：大学 島田桂子准教授)

『赤い手袋の奇跡 ギデオンの贈り物』

カレン・キングズベリー、2006年

クリスマスにはよくプレゼントを贈ります。贈りたいと思う人のことを考えて、その人にふさわしいと思う、きっと喜んでもらえると思うものを、一生懸命用意してドキドキしながら渡すのです。そしてその心を込めた贈り物をいただく人も、見えない大切な心を含めて受け取るのでしょう。

重い病気の中にあっても決して希望を失わずにいるひとりの少女の信じる心が、クリスマスを目前にしてすべての希望が無くなったと感じるおとなたちの心を変えていき、「家族」を立て直していくのです。

「クリスマスの奇跡は、信じる人に起きる」



(おすすめ人：学園キリスト教センター 島田久美子)



『赤い手袋の奇跡 ギデオンの贈り物』(集英社)
キリスト教センターに置いています。



クリスマス Q & A

いまさら訊けない、
いや、まだ訊ける

Q. クリスマスツリーにモミの木を飾るようになったのはいつ、どこからですか？

A. クリスマスの飾りとしてモミの木を飾るようになったのは、16世紀のドイツからで、皆さんも名前は良く知っているマルチン・ルターがローソクを吊るして飾ったのが始まりと言われていますが、別の伝承ではフランスのシュトラスブルグから始まったともいわれています。また、モミの木の他にもクリスマスに用いられているのがヒイラギですが、これは、ヒイラギの棘だらけの緑の葉と赤い実が、イエス様が十字架に架けられた時の茨（いばら）の冠と流された血を思い出させるからです。

Q. クリスマスカードが最初に販売されたのはどこでしょう？

A. 年末年始の挨拶状（グリーティングカード）として、クリスマスの嬉しい気持ち、お互いを気遣う気持ちを伝えあうためにクリスマスカードが出されます。始まりはイギリスで、1843年に発売されました。クリスマスカードはアドヴェント中ならいつだしても良いそうです。今年はクリスマスカードを出してみてもいいでしょうか。

参考資料

クイズdeキリスト教入門（日本キリスト教団出版局、2010年）
よくわかるキリスト教の暦（キリスト教新聞社、2003年）
讃美歌21略解（日本キリスト教団出版局、1998年）

Q. クリスマスはどうしてプレゼントを贈ったりするのでしょうか？

A. イエス・キリストの誕生のとき、東の方の国の学者たちが長い旅の末、星に導かれてやってきました。贈り物を届けるためにどれだけ時間をかけ、心を込め準備したかを想像します。やっと着いた時、心から喜びそれぞれが救い主に一番ふさわしいと思うものを贈りました。クリスマスプレゼントはそのことを思い出します。嬉しい時、その気持ちを分け合うプレゼントをしたいですね。

Q. 「きよしこの夜」の讃美歌はどのようにつくられたのですか？

A. 1800年前半、オーストリアのある町のカトリック教会で、クリスマス礼拝の直前に大切なオルガンが壊れてしまいました。貧しい小さな教会はオルガンを修理することができず、助祭がギターで新しい讃美歌を歌えるようにしようと作詞し、教会のオルガニストがそれに曲を付けました。この歌は、やがてチロル地方の人々によって宗教民謡として歌われ、世界中に広められ、1880年頃から各地の讃美歌集に掲載され、代表的なクリスマスの讃美歌になりました。

Q. よく「クリスマス・キャロル」という言葉を聞きます。キャロルとは何ですか？

A. キャロルとは「楽しそうに賛美する」という意味です。中世後半から生まれてきた、古くからの民族的、世俗的な民謡や舞曲に、キリスト教的な内容が結びついた民衆の歌をそう呼びます。ですから「クリスマス・キャロル」は「クリスマスの賛美」という意味です。フランス語では「ノエル」と言います。

写真で振り返る北星学園のクリスマス



1946年(昭和21) 寮のクリスマス(左)

戦争が終わり、校舎での授業が再開した1946年5月20日、この日の朝、全校生徒は講堂に入り、3年ぶりに礼拝を行いました。北一条教会の小野村林蔵牧師が校長に就任し、引き揚げてきた牧師やキリスト者が教師に採用され、外国人宣教師の復帰にも力を注ぎました。この年、寮でもクリスマスを祝い、学園再建の息吹がみなぎっていました。



1951年(昭和26)頃 のクリスマス(左)

畳の上なので寮生でしょうか？ツリーを背景に2人ともマリアに扮しているのでしょうか。



1987年(昭和62)12月23日
学園創立百周年クリスマスページェント(上・右)



クリスマス、おめでとうござい
ます。

今年度は、イエス・キリストの誕生を祝うクリスマス特集号をお届けします。イエス・キリストの誕生を待ち望むことを意味する、「アドヴェント」がテーマです。

北星学園の教育がよって立つキリスト教の精神は、生徒や学生、教職員である皆様の姿によって世に明らかにされています。同様に、わたしたち人間を「神の像」として創造された神の愛は、人となられた子なる神イエス・キリストの姿によって現わされています。

皆様の健康、幸せ、平和のために誕生し、生涯と命をささげ尽くす神の愛を、お読み取りいただけたら、幸いです。

(学園キリスト教センター運営委員会
委員長 古川敬康)

発行・編集

北星学園キリスト教センター運営委員会
〒004-8631

北海道札幌市厚別区大谷地西2丁目3-1

TEL 011-891-2731(内6286)

FAX 011-892-6097

✉ hcc@hokusei.ac.jp

印刷 岩橋印刷株式会社

編集後記